

2023年度事業報告

(2023年4月1日から2024年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 学術大会について

第64回日本神経学会学術大会を下記のとおり開催した。現地開催とWEBシステム利用の一部ハイブリッド方式による開催とした。

- ・大会長 桑原聡 千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学教授
- ・会期 2023年5月31日(水)から6月3日(土)までの4日間
- ・場所 幕張メッセ

(2) 学術大会運営について

① 第68回学術大会大会長を選出した。

小野寺理 新潟大学脳研究所臨床神経科学部門神経内科学分野教授

② 第65回学術大会を東京都で開催するため、その準備を進めた。

- ・大会長 戸田達史 東京大学大学院医学系研究科神経内科学教授
- ・副大会長 横田隆徳 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学教授

(3) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。

北海道地方会(2回)、東北地方会(2回)、関東・甲信越地方会(4回)、東海・北陸地方会(3回)、近畿地方会(3回)、中国・四国地方会(2回)、九州地方会(4回)

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」63巻4号～64巻3号の全てを通常号発行した。また、学術大会抄録はサプリメントとして発行した。いずれも電子ジャーナルである。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」(Volume 11, Issue 3～Volume 12, Issue 2)を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

- ① 筋萎縮性側索硬化症診療ガイドライン2023、多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクトラム障害診療ガイドライン2023を出版した。
- ② 神経疾患の遺伝子診断ガイドライン、CIDP/MMN診療ガイドライン、ギランバレー症候群/フィッシャー症候群診療ガイドライン、デュシェンヌ型筋ジストロフィー、認知症疾患診療ガイドライン、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン、てんかん診療ガイドライン、細菌性髄膜炎・単純ヘルペスウイルス脳炎診療ガイドライン、パーキンソン病診療ガイドライン改訂版作成を進めた。

3 啓発活動

(1) 広報活動

- ① 会員向けのニュースレターを発行した（第9号）。
 - ② 本学会認定施設で行われる神経内科を紹介する説明会やセミナー等の企画を、本学会ホームページで紹介する事業を実施した。
 - ③ レジナビフェア@東京ビッグサイトに6月出展、レジナビフェアオンライン西日本 Week に7月に参加した。
 - ④ 「医学生・研修医のための脳神経内科ウェブセミナー」を9月に開催した。
 - ⑤ resident ホームページの広報の協力依頼を行った。
 - ⑥ 「脳神経内科だからできること」（一般の方へ）、（医学生・研修医の方へ）の改正を行った。
 - ⑦ 一般向け広報を目的とした病院・薬局に配布するリーフレットを作成した。
 - ⑧ コロナで中止していたサマーキャンプを地域限定で行った。
- (2) 医学生を対象とした学術大会への参加支援について
医学生を対象とした学術大会への参加支援（交通費補助）を、引き続き学会が主催して行う。
- (3) resident ホームページの開設について
5月社員総会の後に、resident ホームページをオープン。毎月、「各施設の医局紹介」と「未来の脳神経内科」の記事の更新、学会主催イベント紹介など、コンテンツの充実をすすめた。
- (4) 医学生を対象とした学術大会への参加支援について
医学生を対象とした学術大会への参加支援（交通費補助）については、支援した学生の数は38名であった。
- (5) 脳神経内科フォーラムの活動支援
昨年度に引き続き、脳神経内科フォーラムが企画・実施する脳神経内科と神経疾患を広報する活動を支援した。

4 研究奨励

日本神経学会賞を選考した。

学術研究部門

波田野 琢 順天堂大学医学部神経学講座

「パーキンソン病の病態解明と疾患バイオマーカーの開発」

診療教育部門

池田 昭夫 京都大学医学研究科てんかん・運動異常生理学講座

「わが国の脳神経内科医のてんかん診療と脳波の包括的専門教育と診療向上」

5 研究推進

(1) 研究支援

「脳神経内科領域における IT 活用事例」の公開と事例の集積を行った。

(2) 産官学連携について

- ① 日本神経学会主催産官学創薬スクール「神経疾患に対する創薬トランスレーショナルリサーチを学ぶ」を2024年2月7日（水）にWEBシステム利用により開催した。
- ② LINK-J協賛にて2024年3月7日（木）にシーズマッチングフォーラムを開催した。

(3) 他団体との連携協力

神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力した。

6 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

- ① 第49回専門医試験を次のとおり実施した。
 - ・第1次試験 2023年10月7日(土)(TKP品川カンファレンスセンター)
合格者数 207名
 - ・第2次試験 2023年11月12日(日)(日本都市センター会館)
合格者数 206名
- ② 第29回専門医認定更新を実施した。
2023年度末専門医数は、6,757人である。

(2) 教育施設

- ① 施設認定更新
2024年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。2023年度末認定施設数は、830施設である。
- ② 指導医認定
2024年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、2024年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。2023年度末指導医数は、3,291人である。
- ③ 特別連携施設制度について
指導医あるいは専門医が在勤していない小規模施設において、教育施設として連携することによって専門医研修ができる特別連携施設制度は2023年度末で27施設である。

(3) 専門医制度

- ① 新専門医制度における研修施設を日本専門医機構に報告するとともに、専門医研修を開始した専攻医の調査を教育施設及び准教育施設に対して行った。
- ② 基本領域である日本内科学会に対して提出をしているサブスペシャリティ領域専門医認定・更新基準案の改正について検討した。
- ③ 神経内科専門医の基本領域化については、他学会の関係者と協議など理解を求める活動を行った。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

- ① 第64回学術大会時に第20回生涯教育セミナー(レクチャー・ハンズオンセミナー)をWEBシステム併用で開催した。参加者数は、960人であった。
- ② 以下の支部で生涯教育講演会を開催した。
北海道支部、東北支部、関東・甲信越支部、東海・北陸支部、近畿支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部。

(2) 専門医育成教育事業

第64回学術大会時に、第21回専門医育成教育セミナーをWEBシステム併用で開催した。受講者数は、357人であった。

なお、2023年12月10日(日)にクロスウェーブ幕張にて第22回専門医育成教育セミナーを実施。受講者数は、81人であった。

(3) メディカルスタッフ教育事業

第64回学術大会時に、第10回メディカルスタッフ教育セミナーを幕張メッセにおいて開催し、参加者数は56人であった。

(4) 卒前・初期臨床研修教育事業

教育実習機器（診察用ハンマー）を制作し、卒前のポリクリ実習や初期研修医が脳神経内科の臨床実習を効果的に受けるためのサマーセミナー参加者等に配付した。

(5) 第6回特別教育研修会（脳卒中コース）を、2023年9月6日（土）に東京国際フォーラムにおいてハイブリッド開催した。参加者数は、596人であった。

第7回特別教育研修会（てんかん・頭痛・認知症コース）を2023年10月29日（日）に東京国際フォーラムにおいてハイブリッド開催した。参加者数は、1,323人であった。

(6) 教育コンテンツ配信事業

① e-ラーニングシステムの運用

専門医単位を取得できるe-ラーニングシステムを運用した。

② 画像システムの整備

静止画像を教育用に活用する画像システムの運用をした。

(7) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師として教育活動に貢献した会員3名を表彰した。

(8) 会員の研修支援事業の実施

海外研修（留学）10名の支援を実施した。なお、国内研修支援はなかった。

(9) 学術大会時の教育プログラムについて

第65回学術大会時の教育プログラムを企画した。同大会で実施予定である。

8 診療向上のための活動

(1) 令和6年度診療報酬改定最終提案書提出

令和6年度診療報酬改定に向けて最終提案書を提出した。2024年1月15日に医療技術の評価について案が発表され、神経学会から提出した6案件はいずれも改定に向けた対応は行われぬとの評価がされた（医学的な有用性が十分に示されていない等の理由）。

① 医療技術評価提案書（保険未収載技術用）

- ・血清コレステロール測定（血液）
- ・難治性片頭痛・三叉神経自律神経性頭痛指導料

② 医療技術評価提案書（保険既収載技術用）

- ・神経学的検査（D239-3）
- ・経管栄養・薬剤投与用 カテーテル交換法
- ・薬剤投与用胃瘻造設術
- ・デジタル脳波判読の遠隔診断

(2) 厚生労働大臣等への要望書提出

① L-ドパ/ベンセラジド塩酸塩配合錠の半用量製剤に関する要望書

② ABBV-951 治療システムの遅滞ない薬事承認・保険適用並びに適切な診療報酬上の評価についての要望書

③ 医薬品承認申請予定の（仮）T&T カートリッジについての要望書

④ ヴィアレブ配合持続皮下注の在宅自己注射保険適用に関する要望書

- ⑤ ジルコプラナトリウム 1 日 1 回皮下投与製剤の早期承認及び在宅自己注射保険適用に関する要望書
 - ⑥ 抗 FcRn 抗体フラグメント製剤 エフガルチギモド皮下注製剤の在宅自己注射保険適用に関する要望書
 - ⑦ SOD1 変異を有する筋萎縮性側索硬化症 (ALS) に対する、トフェルセンの早期薬事承認に関する要望書
 - ⑧ 難病等の希少疾患の治療薬に係る DPC の取り扱いに関する要望書
 - ⑨ 抗補体療法治療患者に対する血清群 B 髄膜炎菌ワクチンの未承認薬・適応外薬としての早期承認要望書
 - ⑩ 抗 FcRn 抗体フラグメント製剤 エフガルチギモド皮下注製剤の在宅自己注射保険適用に関する要望書
- (3) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の開発要望に対する学会見解の提出
- (4) その他、厚生労働省への医薬品等の継続供給要望書を 13 件提出した。

9 小児—成人移行期医療について

小児—成人移行医療対策特別委員会は神経内科領域における委員会活動現状を臨床神経学に掲載した。また、小児から成人診療科への移行を語る会を WEB 開催し、小児診療科と成人診療との連携推進を図った。

10 遺伝医療に関する課題対策について

出生前、発症前の遺伝子診断、さらに重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査 (PGT-M) に関する意見書について検討するため遺伝学的検査に関する課題検討委員会を設置し、

- (1) PGT-M 臨床倫理個別審査会審査結果に関する意見書を提出し、日本産科婦人科学会との合議の場において「審査結果の公表には慎重にあるべき」との申し入れを行った。
- (2) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査 (PGT-M) に対する審査協力を 4 件行った。

11 国際協力事業

(1) アウトリーチ型海外教育事業

ASNA との連携を図るべく、4 名の医師を現地に派遣し合同でハンズオンセミナーを行い、今後の派遣継続のために ASNA との覚書を交わした。

(2) AOCN2024 事業

2024 年開催予定である AOCN2024 (19th Asian Oceanian Congress of Neurology) の準備を行った。(来年度継続)

12 その他の事業

(1) 災害時医療支援の充実

災害時の掲示板立ち上げ、新規受け入れ施設の登録、リエゾンの更新およびリエゾン協議会を開催した。

(2) キャリア形成促進事業

会員のみならず一般の医療者も対象として以下の 2 回のウェビナーを実施した。

- ① 2024年1月28日（日）開催 アカデミアの魅力とサバイバルガイド
- ② 2024年3月23日（土）開催 医師のバーンアウトについて学び、予防するための必修セミナー～あなたと周囲の人を守るために大切なこととは？～

(2) 臨床医部会設置準備について

他学会の臨床医部会の類似例の調査を行い、臨床医部会設置の答申案を作成した。

学術集会にてシンポジウム、教育コースを実施し脳神経内科のキャリアパス、他学会の臨床医部会の活動、脳神経内科開業の実際について議論した。

(3) 学会運営のためのコンピュータシステムの整備について

会員情報を管理するシステムをリニューアルし、2023年10月運用を開始した。

これに伴って、会員入退会手続き、専門医受験手続、認定施設申請手続き、指導医認定申請手続きをオンライン化した。

本学会会員の会員認証と、会員の登録情報の確認や、学会情報の提供を目的とするシステムとして、スマートフォンを利用した「日本神経学会会員アプリ」を整備した。運用は2024年4月を予定している。

(4) 地方会支部の課題調査検討について

地方会支部課題調査検討特別委員会において今後の地方会への財政的支援のあり方について検討するためアンケート調査を実施した。

13 一般社団法人としての運営

(1) 理事選挙の実施

2024年社員総会で選出される理事選挙を行った。定数22名に対し22名の立候補により、2024年2月14日無投票当選による結果を公示した。

(2) 代議員の補充

2023年度の学術大会終了時に任期が満了となる代議員の欠員および支部移動により欠員となる支部選出代議員の補充を行った。

(3) 日本医学会および日本医学会連合との連携

第31回日本医学会総会（2023東京開催）の開催やと日本医学会連合の活動に協力した。